

学習指導要領		都立世田谷総合高校 学カスタンダード
<p>(1) 世界史の扉</p> <p>自然環境と人類のかかわり、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史にかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付かせる。</p> <p>ア 自然環境と人類のかかわり 自然環境と人類のかかわりについて、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、世界史学習における地理的視点の重要性に気付かせる。</p> <p>イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり 日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付かせる。</p> <p>ウ 日常生活にみる世界の歴史 日常生活にみる世界の歴史について、衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を考察させ、日常生活からも世界の歴史がとらえられることに気付かせる。</p> <p>(2) 諸地域の形成</p> <p>人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。</p> <p>ア 西アジア世界・地中海世界 西アジアと地中海一帯の地理的特質、オリエント文明、イラン人の活動、ギリシア・ローマ文明に触れ、西アジア世界と地中海世界の形成過程を把握させる。</p>	<p>*自然環境と人類の関わり 世界史は世界の諸地域を対象としており、その自然環境も多様で、地域ごとの資源、産業、生活条件は異なり、歴史的事象はそうした立地条件によって大きく左右されることに気づく。</p> <p>*日本の歴史と世界の歴史のつながり 日本史も世界史の一環であり、世界全体の動きが日本での歴史的事象に影響を与えていることは、先史時代以降常に存在するが、特に近現代において密接な関わりを持つことに気づく。</p> <p>*日常生活にみる世界の歴史 歴史を学習する意義は、単に過去の歴史的事象を知識として蓄えることではなく、今日の世界や日本の情勢を理解し、日常の生活にそれなりの歴史的背景があることを、食生活などを通して理解する。</p> <p>*西アジア世界 西アジア世界は日本と比べると乾燥した気候であり、砂漠気候も広汎に広がっていることを知る。 西アジア世界では、ナイル川によって食料生産の安定したエジプトを例外として、乾燥気候のため食料生産が安定せず、都市国家同士の離合集散から、アッシリアやアケメネス朝ペルシア帝国などの、オリエント全域を支配する広大な帝国が出現し、多くの民族がそれに従ったのは、日常的に貢納を求められながらも、飢饉の際に広大な帝国が、他の民族の貢納から救援を行うなどの機能を</p>	

学習指導要領	都立世田谷総合高校 学カスタンダード
<p>イ 南アジア世界・東南アジア世界</p> <p>南アジアと東南アジアの地理的特質、インダス文明、アーリヤ人の進入以後の南アジアの文化、社会、国家の発展、東南アジアの国家形成に触れ、南アジア世界と東南アジア世界の形成過程を把握させる。</p>	<p>果たしていたことに、その一因があることを理解する</p> <p>*地中海世界</p> <p>地中海世界も日本と比較すると乾燥した気候で、しかも日本とは逆に冬に降水量が多く、気温も温暖であることから、冬に小麦栽培、夏にオリーブなどの果樹栽培が行われることを知る。</p> <p>西アジア世界同様食料生産が安定せず、都市国家（ポリス）同士の慢性的戦争状態から奴隷制が広汎に広がったことと、都市国家（ポリス）防衛する能力を持ったものが、正式な市民として政治の参加できることを知る。</p> <p>こうした背景を前提として、アテネにおける貴族政から民主制への発展。ローマにおけるパトリキとプレブスの対立を理解する。</p> <p>またアレクサンドロスの征服により成立したヘレニズム国家は、ギリシア世界とオリエント世界を統合し、ローマ帝国によって地中海世界とオリエント世界が一体化したことを理解する。</p> <p>*南アジア世界・東南アジア世界</p> <p>現在はパキスタン、インド、バングラデシュに分かれた歴史的インドが、ヒマラヤ山脈やパミール高原、スライマン山脈と砂漠に囲まれ、古くはカイバル峠が外の世界から、インドに進入するほぼ唯一の交通路だったことを知る。</p> <p>インドでは哲学や文学に関する記録は多いが、年代がはっきりする歴史的記録はほとんど残されず、中国の法顕、玄奘、義浄やギリシア人のメガステネスなどの記録から、インド史の知識を得ていること。日本ではインド史は仏教研究から始まっており、歴代王朝も仏教との関係の濃淡により、バイアスがかかっていることを知る。</p> <p>インダス文明は高度な都市文明で、モエンジョ＝ダロやハラッパーの遺跡は残るが、文字が未解読なため歴史的には未解明で、滅亡の理由もわかっていないことを知る。</p> <p>アーリヤ人の進入以後も歴史的記録はほとんど残されず、「リグ＝ヴェーダ」などから推測するし</p>

学習指導要領	都立世田谷総合高校 学カスタンダード
<p>ウ 東アジア世界・内陸アジア世界</p> <p>東アジアと内陸アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。</p>	<p>かないことと、ヴァルナやジャーティといった觀念が持ち込まれ、現在に至るまで続くカースト制度が生まれたことを理解する。</p> <p>アーリヤ人のガンジス川への進出以後、バラモン教の祭祀万能に飽き足らない、クシャトリアやヴァイシャなどに仏教やジャイナ教が広まり保護されたこと、マウリア朝、クシャナ朝、グプタ朝、ヴァルダナ朝などの歴代王朝の時代に、古典インド世界が成立したことを理解する。</p> <p><b>*東アジア世界</b></p> <p>黄河文明から今日まで連綿と続く中国は、同じアジアでも歴史的記録をほとんど残さなかったインドとは対照的に、信憑性はともかく神話的な三皇五帝に始まって、歴代王朝の正史が数多く残っていることを知る。</p> <p>黄河流域は日本と比べると乾燥した気候で、メソポタミア同様小麦の生産が行われ、やはりメソポタミア同様に都市国家（邑）が成立したことを理解する。こうした都市国家の連合体として商や周が成立したことを理解する。</p> <p>周の中央集権化と、有力な邑の領域国家化により周による黄河流域の統一は崩れ春秋戦国時代となったことを理解する。</p> <p>春秋戦国時代の政治的混乱と、経済の発展について知り、こうした社会の活力を背景に、儒家、道家、法家といった諸子百家の思想が展開されたことを理解する。</p> <p>秦の始皇帝による中国統一と、法家の思想に基づいた官僚支配の成立について知る。こうした専制的な中央権力が、官僚を使って中国全土を支配する体制が、現在に至るまで中国の国家体制の基本として続いていることを理解する。</p> <p>万里の長城が建設されていることから、遊牧世界の存在に気づき、長城建設が秦王朝滅亡の一因となり、劉邦による漢王朝が成立したことを知る。</p> <p>漢の支配の安定と領域の拡大について知り、中国を中心とした東アジア世界が成立したことを理解する。</p> <p>遊牧民族の中国支配と漢民族の江南への移住が進</p>

学習指導要領		都立世田谷総合高校 学カスタンダード
<p>エ 時間軸からみる諸地域世界</p> <p>主題を設定し、それに関連する事項を年代順に並べたり、因果関係で結び付けたり、地域世界ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を時間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p> <p>ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発化し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。</p> <p>(3) 諸地域世界の交流と再編</p> <p>ア イスラム世界の形成と拡大</p> <p>アラブ人とイスラム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラム化に触れ、イスラム世界の形成と拡大の過程を把握させる。</p>	<p>んだ魏晋南北朝時代の分裂した中国、隋による中国統一と唐王朝への交代を知り、貴族政治のもと安定した唐王朝が、東アジア世界全体を掌握したことを知る。</p> <p>*時間軸からみる諸地域世界</p> <p>ローマ帝国とパルティアと漢王朝が、ほぼ同時代のユーラシア大陸の存在したことを知り。各地域における統一国家の出現が偶然ではなく、内的要因に加えて、他の統一国家の出現が要因の一つとなったことを理解する。</p> <p>*イスラム世界の形成と拡大</p> <p>セレウコス朝の分裂によって生じたパルティアと、ササン朝ペルシアというイラン系王朝が、ローマ帝国と争うことでアラビア半島の商業貿易が盛んになったことを理解する。</p> <p>ムハンマドによるイスラム教団の成立と、アラビア半島の統一、ウマイヤ朝とアッバース朝時代のイスラム世界の拡大について知る。</p> <p>イスラムの教義と禁忌について知り、イスラム教徒として生活するには、社会全体がシャリーアに基づいていることが必要なことを理解する。</p> <p>イスラム世界の拡大に伴ってイスラム教が広まったが、アッバース朝によるイスラム帝国支配が崩れ、いくつものイスラム国家が出現したことを知る。これらのイスラム国家ではトルコ人などを、奴隷身分の兵士（マムルーク）として利用することになったことを理解する。</p> <p>マムルークは君主に忠実な軍事力として期待されたが、次第に各地にトルコ系のイスラム国家を建国したことを知る。</p> <p>アッバース朝によるイスラム帝国の分裂後も、ムスリム商人の活動などにより、イスラム教自体は広まり、デリースルタナートの北インド支配、マリ、ソンガイなどアフリカのイスラム国家の成立について理解する。</p>	

学習指導要領	都立世田谷総合高校 学カスタンダード
<p>イ ヨーロッパ世界の形成と展開 ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、西ヨーロッパの封建社会の成立と変動に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を把握させる。</p> <p>ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界 内陸アジア諸民族と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動に触れ、内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を把握させる。</p>	<p>*ヨーロッパ世界の形成と展開 ローマ帝国の東西分裂後、西ローマ帝国が滅亡して、ゲルマン人の諸部族が西ヨーロッパ各地に建国したが、その中でローマ＝カトリック教会と結んだ、フランク王国が発展したことを理解する。 ノルマン人などの侵入でフランク王国では王権が衰え、異民族の侵入を撃退した貴族を中心とした封建制が成立したことを理解する。 西ヨーロッパには領主と農奴よりなる自給自足の荘園制が広がり、西ヨーロッパ全体を結びつけていたのが、ローマ＝カトリック教会であることを知り、荘園制と封建制とローマ＝カトリック教会が、西ヨーロッパ中世社会を成り立たせていたことを理解する。 西ヨーロッパと対照的に東ローマ帝国は、ギリシア化したビザンツ帝国に変容しつつも、中央集権制と貨幣経済を維持していたことを理解する。 十字軍の影響で商業と都市が復活し、荘園制が崩れ出す西ヨーロッパの封建社会全体が解体に向かうプロセスを理解する。</p> <p>*内陸アジアの動向と諸地域世界 匈奴や突厥の例から、有力な指導者が出ると広大な帝国を建設し、指導者に人を得ないとたちまち部族単位の生活に戻る、遊牧民族の社会や国家の構造を理解する。 契丹や女真、タングートなどがかつてのようにならぬ一方、中国の経済力を利用して遼や金、西夏を建国する一方、漢民族の宋は歳幣といった経済力で平和を得るようになったことを理解する。</p> <p>*モンゴル民族の発展と征服活動について知り、巨大な遊牧国家の代表としてのモンゴル帝国について理解する。</p> <p>*モンゴル帝国の分裂について知り、南宋を滅ぼしてモンゴル高原から中国全土を合わせて支配したフビライ＝ハンが中国式に大元と号した意味について理解する。</p>

学習指導要領		都立世田谷総合高校 学カスタンダード
<p>エ 空間軸からみる諸地域世界 同時代性に着目して主題を設定し、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を空間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p> <p>(4) 諸地域の結合と変容 アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。</p> <p>ア アジア諸地域の繁栄と日本 西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とその中で日本の位置付けを理解させる。</p> <p>イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。</p> <p>ウ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会</p>	<p>*空間軸からみる諸地域世界 いわゆるパックスモンゴリカを背景に、活躍したマルコ=ポーロやイブンバトゥータの活動に注目する。</p> <p>*アジア諸地域の繁栄と日本 中国的国家の完成形としての明と、遊牧世界と中国を支配し、チベット、新疆を支配下に置き、現在の中国の領域的フレームワークをつくった清の歴史的意義を理解する。 遊牧民族が征服により広大な領域を支配したティムールについて知り、ティムールの末裔バーブルが建国した、インド=イスラム国家としてのムガル帝国について理解する。 オスマン帝国の成立と発展について知り、オスマン帝国の世界帝國的な観念を理解する</p> <p>*ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ルネサンスと宗教改革がヨーロッパの人々の精神的、思想的革命であったことを理解する。 大航海時代以降のヨーロッパのアジア、アフリカ、アメリカへの進出と、商業貿易活動について知る。 主権国家の成立と王権の強化によって弱体化した封建貴族が、経済的・政治的実力を高めた市民階級によって、市民階級中心のヨーロッパ近代社会が成立する過程が、市民革命であることを理解する。</p> <p>*ヨーロッパの拡大と大西洋世界 本国イギリスからの独立が市民革命となったアメリカ独立革命と、典型的な市民革命のパターンを見せたフランス革命の違いに注目する。</p>	

学習指導要領	都立世田谷総合高校 学カスタンダード
<p>と国民国家の形成を理解させる。</p> <p>エ 世界市場の形成と日本 世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアの特質とその中で日本の位置付けを理解させる。</p> <p>オ 資料からよみとく歴史の世界 主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得させる。</p> <p>(5) 地球の到来 科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21世紀の世界について展望させる。</p> <p>ア 帝国主義と社会の変容 科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察させる。</p>	<p>資本、労働、技術の三者の変化と革新が、産業革命に不可欠であったことを理解する。</p> <p>*世界市場の形成と日本 産業革命以降ヨーロッパの植民地獲得の目的が、商業貿易の拠点の確保から、工業製品の市場の確保に変化していったことを理解する。 オスマン帝国をめぐる東方問題は、ヨーロッパ列強諸国とアジア、アフリカ諸地域との関係の変化であることを理解する。 オスマン帝国、カジャール朝のイラン、アヘン戦争以降の清などは、半植民地化の例であることを知り、直轄植民地とされたインドとタイを除く東南アジア諸国の場合との違いを理解する。 列強諸国による植民地化を避けつつ、産業化、近代化を成し遂げた日本について理解する。</p> <p>*資料からよみとく歴史の世界 基本的な資料の読み方を理解し、歴史全体の流れのなかでその資料の意味を理解する</p> <p>*帝国主義と社会の変容 欧米列強諸国における独占資本主義経済の成立について理解し、これらの諸国の経済が不断の植民地拡大を必要とする帝国主義国家に変容していったことを理解する。 帝国主義諸国による植民地支配に対して、植民地支配下のアジア、アフリカの諸民族による抵抗運動について知る。 不断の植民地拡大を必要とする帝国主義国家同士の、植民地をめぐる抗争について知る。</p>

学習指導要領	都立世田谷総合高校 学カスタンダード
<p>イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現 総力戦としての二つの世界大戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察させる。</p> <p>ウ 米ソ冷戦と第三世界 米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などを理解させ、第二次世界大戦後から1960年代までの世界の動向について考察させる。</p> <p>エ グローバル化した世界と日本 市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について考察させる。</p> <p>オ 資料を活用して探究する地球世界の課題 地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。</p>	<p>*二つの世界大戦と大衆社会の出現 第一次世界大戦が、植民地獲得競争のいわば最終戦出あることを理解する。 世界大戦が帝国主義諸国の矛盾を拡大し、社会主義革命や挙国一致内閣の成立、ドイツ帝国の崩壊につながったことを理解する。 第1次世界大戦以後、欧米諸国を中心の大衆社会が出現し、大衆動員の政治運動としてファシズムが出現したことを理解する</p> <p>*米ソ冷戦と第三世界 米ソの冷戦が資本主義、自由主義と社会主義の間の単純なイデオロギー対立ではなく、アジア、アフリカの民族独立運動を巻き込んだ複雑な内容を持つものだったことを理解する。</p> <p>*グローバル化した世界と日本 冷戦の終結後旧ユーゴスラヴィアに代表される地域、民族紛争が多発する一方で、EU 統合やASEAN の強化など地域統合も進展していることを理解する。</p> <p>*資料を活用して探究する地球世界の課題 冷戦終結後も依然として冷戦時代の思考のままの外交政策をとっているかにみえる、日本の外交について思考できるようになる</p>



